

## 第6回釧路生活困窮者自立支援検討委員会・議事録（要約）

### ■開催日時

平成28年1月28日（木） 13:30～15:30

### ■開催場所

ビケンワークビル4F 釧路社会的企業創造協議会事務所（北大通12丁目1-14）

### ■実施テーマ

官民地域一体となった仕組みづくり・地域づくり①

### ■議事

13:30 開会（5分）

13:35～14:15 話題提供①（35分）

14:15～14:50 話題提供②（35分）

14:50～15:25 話題提供③（35分）

15:25～15:30 閉会（5分）

### ■出席者（五十音順）

<委員>

・釧路市連合町内会 副会長・総務部長	安藤 朝興 氏
・釧路市医師会看護専門学校・前副校長	伊藤 まり 氏
・東部北地域包括支援センター・所長	伊藤 靖代 氏
・釧路地区障害老人を支える会（たんぽぽの会）・前会長	岩渕 雅子 氏
・釧路市社会福祉協議会・事務局長	小野 信一 氏
・釧路市障がい者基幹相談支援センター・課長補佐 相談支援専門員	金子 一也 氏
・元釧路市教育委員、NPO法人駆け込みシェルター釧路・副代表	後藤 哲子 氏
・ハート釧路・施設長	佐々木 寛 氏
・NPO法人おおぞらネットワーク・理事長	千葉美也子 氏
・釧路地区保護司会	津田 鉄子 氏
・株式会社そんぐ代表取締役、ケアセンター・所長	椿 玲子 氏
・釧路民生委員児童委員協議会・会長	土井 英昭 氏
・有限会社釧路フィッシュ・代表取締役	平野 勝幸 氏
・前釧路市消防本部消防長・民生委員	星 光二 氏
・株式会社美警・代表取締役	三上 葉月 氏
・一般社団法人立支舎・代表理事、社会保険労務士	三木 克敏 氏

### <オブザーバー>

・ 釧路市議会議員（民生福祉常任委員会委員）	工藤 正志 氏
・ 法テラス釧路 事務局長	島元 禎登 氏
・ 法テラス釧路 弁護士	阿相 裕隆 氏
・ 法テラス釧路 弁護士	佐藤 圭 氏
・ 釧路市福祉部 部長	土屋 敬視 氏
・ 釧路市福祉部生活福祉事務所 主幹	都嶋 和英 氏
・ 釧路新聞社編集制作局報道部 副部長	坂上めぐみ 氏
・ 日本経済新聞社 釧路支局支局長兼東京地方部編集委員	野間 清尚 氏

### <事務局>

・ 一般社団法人釧路社会的企業創造協議会 代表理事	小和田 力
・ 一般社団法人釧路社会的企業創造協議会 副代表	櫛部 武俊
・ 一般社団法人釧路社会的企業創造協議会 事務局長	相原 真樹
・ 一般社団法人釧路社会的企業創造協議会 相談支援員	佐藤 茂
・ 一般社団法人釧路社会的企業創造協議会 相談支援員	山家 由三

計：29名

## ■議事録

### 話題提供①

#### ◎地域包括支援センターについて

- ・ 釧路市の設置状況、職員配置

#### ◎個別支援事例～総合相談の事例から見えてくること～

##### ①孤立した独居高齢者

→特に医療との関わりの中で課題が顕在化しやすい

##### ②老親と壮年の子の世帯

→経済的困窮（親の年金頼り）、介護の問題、閉鎖的な同居生活、将来の見通しの無さ

##### ③老親と障害がある壮年の子の世帯

→親の入院等で子の生活が急に破綻、一方で親が不在となることにより子が力を発揮する場合も

##### ④医療受診が皆無の方

→医療不信、自らサービスを拒否

##### ⑤かつて一生懸命働いていた高齢男性

→仕事の減少、定年、離婚…寂しさから飲酒量が増加、自分自身の価値とは

##### ⑥ゴミ屋敷

→捨てない理由、捨てられない理由に着目

## ⑦老々介護

### ◎総合相談のあり方～相談支援の真価～

- ①多様なニーズに対応する総合相談、役割分担～制度限定的な総合相談から本来の総合相談へ
- ②出口づくりの必要性が顕在化～制度の狭間
- ③相談機関に相談することの意味
- ④予防的な関わり

### ◎つながり

- ・「つなぐ」とは
- 制度を通じて人につないでいる

### ◎地域づくり～住民との協働

- ①機運づくり～地域ケア会議や講座開催等
- ②地域の介護保険事業所～制度上の役割遂行と地域貢献

### ◎意見交換

- ・認知症増加に対する危機感
- 病気の理解と専門機関へのつながりが重要、見て見ぬふりをしない社会
- ・困難事例の捕捉と具体的なアプローチ
- 支援の手を受け付けられない方に対してどうするか
- ・実態調査事業の有効性について
- 経年変化の捕捉、緊急対応時の円滑化
- アウトリーチとして有効
- ・フォーマルな制度の隙間
- インフォーマルの担い手育成が必要

## 話題提供②

### ◎生活困窮者自立支援制度と地域福祉

- ・地域福祉の理念
- ・生活困窮者自立支援制度における社会福祉協議会の役割
- ・くらしごとと釧路市社協の連携事例

### ◎コミュニティソーシャルワーク機能

- ・個別支援と地域支援
- 個別支援から地域の課題が見える、地域支援の中で個別の情報が入ってくる
- ・既存の取組みの有効活用・ブラッシュアップ

### ◎意見交換

- ・キーパーソンは誰か？  
→分野横断的にイニシアティブを取る人、連携の指揮者は誰なのか、どうやってみんなで合意していくのか
- ・地区社協増加への取り組みについて  
→必ずしも地区社協を増やすことだけが小地域ネットワークの充実ではなく、様々な資源や活動を柔軟に組み合わせる事が重要になってくる
- ・生活福祉資金貸付について  
→柔軟化してきてはいるが、よりスピーディーな対応が必要な方も多い。

### 話題提供③

#### ◎医療分野における生活問題

- ・受け皿としての医療  
→生活課題が解決されないまま医療に留まっていた（受け皿になっていた）
- ・医療機関の役割の変化  
→生活の場（社会的入院等）から医療の場へ

#### ◎仕組み化することの意義・必要性

- ・始まりは個人の熱意であっても継続させるには仕組みが必要  
→NPO法、障害者自立支援法（現総合支援法）など
- ・個人での支援からチームでの支援へ

#### ◎高齢な母と精神障害を抱えた息子の事例

- ・母の要介護化による世帯としての生活機能の破綻
- ・新規対応の難しさ  
→予防的関わり、課題が表面化する前からの捕捉と緩やかな関わりが必要
- ・誰が主導すべきか  
→キーパーソンの問題、押し付け合いではない役割分担をどうやって進めるか

#### ◎意見交換

- ・民間事業者としての役割がどういったものか考えている  
→期待している事、担って貰いたいことを教えて欲しい
- ・具体的な連携  
→「連携＝新たな負担」にならない様な仕組みづくり、顔の見える連携
- ・本当の意味での支援  
→仕組み・システムは重要である一方、システム化することで重要なマインドが低下したり失われてしまう側面もあるのではないか。中身と仕組みの両方が必要だが、仕組みのみに汲々としてしまっていないか。